

エドゥケーター研修オリエンテーション

博物館とミュージアム・エドゥケーター

布谷知夫(三重県立博物館)

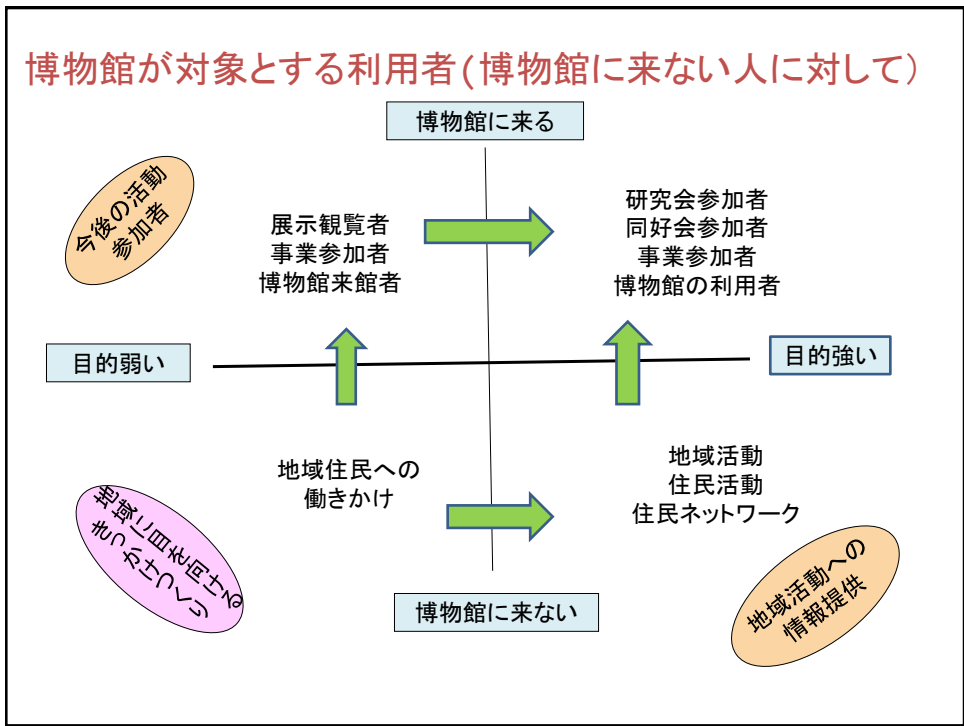
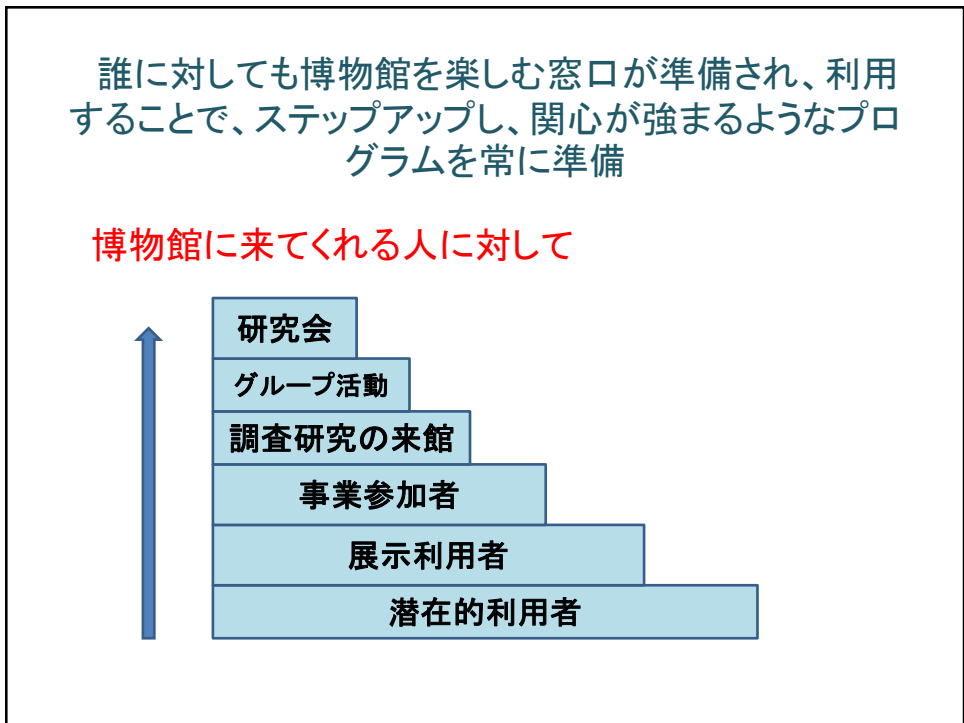
- 文化庁が主催する今年で3年目の研修
- 企画運営会議が協力
- おそらく体系的な日本では初めての研修

- 日本の博物館エドゥケーターの在り方や養成プログラムについては、まだ議論半ばであり、この研修を回を重ねながら実践的に考えていきたい

博物館の仕事とは

- **資料の収集保管**
自分が暮らす地域のアイデンティティ
- **人が学ぶ場**
自由な学びで達成感を得ること
- **地域について調べる**
学芸員と一緒に地域を調べる楽しさ
- **展示**
資料や地域研究でわかったことを展示

- **利用者とは誰のこと**
- **博物館からの対応は**



- すべての事業が参加型で行われる博物館が求められている
- すべての事業に利用者がかかわってくる
資料整備、展示、教育学習、研究
- すべての事業は教育学習活動である

ミュージアム・エドゥケーターの役割

- **学芸員**

ある分野の専門家(研究者)である博物館職員で、すべての事業を行なう

- **エドゥケーター**

学芸員と協力しながら博物館の教育方針やプログラムを企画・実施もする博物館教育の専門家で、その博物館の全体を熟知。知識を伝えるのが目的ではなく、考える切っ掛けを作る

- 学芸員が行なう教育

知識をもとにして自分の専門分野の面白さを伝えたい → 仲間をふやしたい

- エドゥケーターが行なう教育

目標を設定しておき、相手が考え、気が付くようにアドバイスをする → 自立した個の育成

博物館の新しい役割を進める

- 伝統的な役割

地域資料の整備と研究・発信

地域アイデンティティの形成・確立

- 新しい役割

地域社会の活性化による街づくり・地域づくり

この研修の目的

- 博物館における教育学習活動の意味・意義の確認
- エドゥケーターに求められる基本姿勢の体得
- 博物館での教育学習活動の基礎となる教育理論や専門知識の習得
- エドゥケーターとして活動をするための実践力と応用力の体得

もう一つの目的

- 博物館の事業の中での教育学習活動の大切さの再確認
- エドゥケーターという職業の必要性の確認
- エドゥケーターの視点を一度経験して欲しい

これらの目的について、研修会を継続することで実践的にその必要性を広め、博物館界の中に定着させる

- このエデュケーター研修は、日本の博物館での教育学習のあり方について、実践的に体験をし、経験を交流しながら情報を蓄積することで、みんなで作り出していこうとしています。皆さんはその参加者です。